

# 季刊 ジャネット Ja-Net

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

## No. 51

2009年10月25日発行

◆ View from the Other Side .....	3
◆ あちこち日本語ご紹介 (神奈川県横浜市) .....	4
◆ あちこち日本語ご紹介 (ヨルダン・ハシミテ王国) .....	5
◆ 教材紹介 .....	6
『日本語初級2 大地 メインテキスト』 『中級を学ぼう 中級中期』 『文章を理解するとは』	
◆ なんでも情報BOX .....	8

スリーイーネットワーク

### 巻頭寄稿

## 中国語の足し算と日本語の引き算

慶應義塾大学総合政策学部 教授

日本語教育・中国語教育・学習環境デザインワークショップ担当 重松 淳



私の中国語との付き合いは、すでに40年になろうとしています。ほぼ40年前に中国語を習い始めた頃は、もちろん日中国交回復前ですが、中国では文化大革命真っ只中という大変な時期でした。まさしく近くて遠い国、それが中国でした。その10年後、私自身は大学で中国語を教え始め、更に5年後留学生に日本語を教え始めました。その間中国では、日中国交回復(1972)、文革終結(1981)を経て改革開放が始まり、私が生まれて初めて中国の地を踏むことができたのは1988年、中国語学習開始からすでに20年が経過していました。想像の中の中国から、現実の中国へと目を開いていく過程で、多くの中国の人々と知り合い親交を深め現在に至っていますが、その中で、日中の人々の人間関係の築き方の違いをさまざま実感してきました。最も印象が強いのは、中国人は率直に物を言い、言葉にしたことについては裏がないこと、そして日本人は、話の核心を言外に置き周辺を言葉にして相手の察しを待つということです。両者の人間関係の築き方が異なってくるのも当然のことと言えるでしょう。

さて現在の私の仕事の一つに、日本人学生の中国語作文を添削したり、中国人留学生の日本語論文を添削したりすることがあります。この添削という仕事は、時間も労力もかかる面倒な仕事ですが、反面、日中両言語の性格の違いが観察できる実に面白い仕事でもあります。たとえば、日中両言語とも「書き言葉」と「話し言葉」の世界があり、絶対的な書き言葉と絶対的な話し言葉の両極端の間はグラデーションになっています。ただ、「話すように書く」ことへの許容度は中国語の方が高く、論文で「この分野の資料は多くある」と書くところを「この分野の資料はいっぱいあります」と書いた場合、日本語論文として感じられる違和感は中国語では現れないというのが、私の観察の一つです。以下では、少し例を挙げながら、いくつか私の観察結果を述べてみたいと思います。

日本語はよく主語を省略することが多いと言われますが、中国人の書いた日本語文では、日本語では必要な主語が抜けてしまうという現象が結構見られます。例を挙げてみましょう。以下の二つの例は、中国人学生の書いた論文からのほぼそのままの引用です。

- (1) Webサイトに配布されたデモソングに興味を持ったユーザーがソフトを購入し、自作の歌を「初音ミク」に歌わせ、「ニコニコ動画」や「YouTube」に登録し、ミクの歌声をネットに響かせた。動画サイトでそれに魅せられ、ソフトを購入し、さらに自作の曲をアップする。こうして循環を繰り返し益々ユーザーが増え、大ブレイク商品となった。
- (2) 近代ナショナリズムに関する先行研究としてI(氏)の研究を挙げる事ができる。I(氏)の分析によれば、中国の対外戦略に作用する要因は三つある。すなわち、近代ナショナリズム、イデオロギー、過去における革命運動の経験がそれである。まず、清末以来の外国侵略に悩まされた歴史を持っていたことから、中国の安全保障に対する要求には、よりいっそう強い関心を示している。

下線部に注目してください。(1)の始めの下線部には主語が見当たりませんが、恐らく「(別の)ユーザー」が主語でしょう。二番目の下線部にも主語が見当たりませんが、恐らく「初音ミク」が主語でしょう。(2)始めの下線部「清末以来の外国侵略に悩まされた歴史を持っていた」にも、次の下線部「中国の安全保障に対する要求には、よりいっそう強い関心を示している。」にも主語が見当たりませんが、恐らく前者は「I(氏)」ではなく「中国」が主語で、後者は「中国」ではなく「I(氏)」が主語でしょう。結局読み進んでいけば主語は何か想像できますが、日本語文としてはこのような場合は必ず主語が必要になります。中国語でこのような場合は「誰が？」は不要なのでしょうか。

上の(1)(2)の日本語文を逆に中国語に翻訳してもらおうとどうなるか興味があります。そこで試しに知り合いの中国人に翻訳してもらいました。すると以下のような翻訳文が返ってきました。

- (1) 对散发到网站上的歌曲有兴趣的用户,就购入软件,把自创作的歌曲 < 初音未来 > 的软件编辑来唱,并在“快乐动画 <ニコニコ

動画》、「U管〈Uチューブ〉」这样的网站上登录，使〈初音未来〉的歌传遍网络。再被动画网站迷上，购买它的软件，让自作歌曲变得更完美。像这样循环往复用户很快增加，(这样的软件)成了大流行商品。

- (2) 作为这方面的有关先行研究，首先可以看 I 在这方面的研究，根据他的分析，对中国对外战略起作用的主要有三个要素：即是近代民族主义、政治思想和过去的革命运动的经验。首先，由于有清末以来屡受外国侵略所害的历史，对中国安全保障的要求，就倍受关注。

ここから大変面白いことがわかります。(1) で最初の下線では中国語翻訳文では本当に主語がありません。ここは、どのようにして「初音ミク」が「大ブレイク商品」になったかという経過を述べるのがメインなので、「Aが〇〇し、それに触発されてBが〇〇し～」といったような「誰が」の部分には関心がありません。ですから特にAやBが明記されていなくても問題がないのです。但し最後の「大ブレイク商品になった」については、結果的に何がどうなったのかを示すためにどうしても主語が必要になり、翻訳者はそれを( ) で付け足しています。

(2) の方はどうでしょうか。日本語文の下線部は、「～歴史をもっていたことから、～関心を示している」つまり「前節が理由になって後節が起こった」という構造になっています。この場合、前節と後節の主語は同じだと感じるのが普通でしょう。「関心を示す」のが誰かといえば「I 氏」だと考えられるので、必然的に前節の主語も「I 氏」になってしまい、結果的に「I 氏」が「外国侵略に悩まされた歴史を持っていた」ように読めてしまって、日本語としてはチグハグです。中国語翻訳文では、日本語同様前節と後節の主語は同じですが、文末の述部が「注目されている」になっており、「～歴史をもっていたことから、～注目されている」となり、主語が「I 氏」かどうかは不問に付され、一般化された書き方になっています。しかしこの文の流れから言って、下線部が「I 氏」の分析による三つの要素の第一番目である「近代民族主義」についての説明であることは明らかなので、「I 氏」の見解というより一般的な見解として述べられていることとなります。

以上のことから考えると、日本語文では、一つ一つの文は必ず頭と尻尾をもち、それが整合していなければ不自然になり、たとえ主語を省略されていてもその整合性をゆがめることができません。それに対して中国語は、展開されていく事柄のままに述べていくことになり、前後節の関係を明らかにしなければならない場合にだけ、言葉をプラスしていくわけです。

次の二例は、日本人の学生が書いた中国語作文（原文通り、未添削）です。

- (3) 我们大学几乎没有必修课。我们基于自己的学习目标来选择学习科目。所以每个学生的学习科目各个不一样。我对环境情报有兴趣，所以我上经营课、环境政策课、经济课。我的朋友对电脑有兴趣，所以他上程序设计课。另一个朋友对作曲感兴趣，也有朋友对教育有兴趣的。我们大学有各种各样的学生。所以跟这些学生交流真有意思，而且我能得到很好的鼓励。

(訳：私達の大学にはほとんど必修科目がない。自分の学習目標に基づいて学習科目を選ぶ。だから学生ごとに科目がそれぞれ違う。私は環境情報に興味があるので、経営、環境政策、経済の授業に出る。友達はコンピューターに興味があるので、プログラミングの授業に出る。また別の友達は作曲に興味があり、また教育に興味のある友達もいる。私達の大学にはさまざまな学生がいるので、彼らと交流するのは本当に面白いし、とても良い励みにもなる。)

- (4) (关于四川大地震) 很遗憾中国政府现在也不能收容外国的志愿者，所以我现在能最简单的支援是募捐活动。另外，我听了四川的人民要帐篷，所以我们应该买尽可能多的帐篷。这么一说我们能做的救援太少。不过我想最重要的救援是，我给尽可能多的人传达这地震的事实和受害的规模。因为很多人注视这个新闻，宣传媒介也采纳地震的新闻。于是可以提高募捐活动的效率。

(訳：【四川大地震について】残念ながら中国政府は今も外国のボランティアが受け入れられない。だから私に今できる最も容易い支援は募金活動だ。また私は四川の人々にテントが不足していると聞いた。だから私たちは出来る限りたくさんテントを買い尽くさなければならない。そう言い始めると私たちにできる救援は少なすぎる。でも私は一番重要な救援は、出来る限り多くの人に地震の事実と被害の規模を伝えることだと思う。多くの人がこのニュースに注目しているので、メディアも地震のニュースを取り上げる。そこで募金活動の効率も上げられるのだ。)

- (3) (4) どちらも書き手の気持ちがひしひしと伝わっては来のですが、一見して中国語の「所以(だから)」という語がとても多いことに気がつきます。元来中国語は簡潔にずばり核心に触れることを好みます。回りくどい言い方は「罗嗦(ルオスオ くだい)」といわれて嫌われます。ですから「あなたが行かないというのであれば、私も行かない」というところを、「你不去，我也不去(あなた行かない、私も行かない)」のように、前後の関係が明確ならつなぎの部分を省くこともできます。逆に日本語はつなぎの部分がないと、結局聞き手は真意が掴めないということになってしまいます。それでつなぎ言葉がどうしても多くなるわけです。

日本文化は高コンテキストの文化だとよく言われます。共有部分が多く、阿吽の呼吸で事が進み、何を口に出して言うかは、相手や周囲がどう思うか、つまり相手の気持ちの有り様を基準にすることが多いようです。最近はやりの「空気を読む」も「察し」の良し悪しを評価する言葉でしょう。しかし相手に気持ちを察してもらうために口に出す文章には、曖昧さは無いのが日本語だと思います。中国語は必要なら足していく、日本語はきっちり述べて聞き手に引き算や推察をしてもらうわけです。

- それぞれの言語が持つ性格は、それぞれの文化と裏腹の関係にあるわけですが、その発見が面白くて、やっぱり添削はやめられません。

重松 淳(しげまつ・じゅん)

慶應義塾大学総合政策学部教授。日中両言語を中心とした外国語教育研究、21世紀型の言語学習環境研究が専門。

## 学習者の目

このコラムでは、  
学習者の視点での話題を  
お届けします

## View from the Other Side

## 漢字のアハマド

アハマド・アブ・オーデ (ヨルダン)

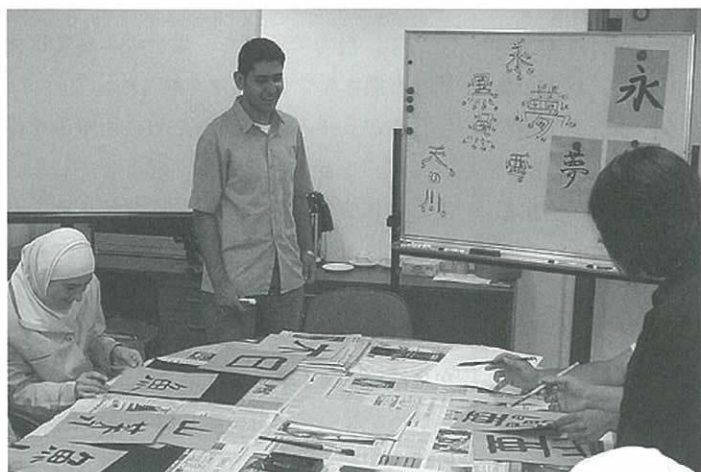
日本語を勉強し始めたのは6年ほど前のことです。その頃私は日本の新旧の文化に夢中になっていました。大学1年生のとき日本語を勉強できる機会がやっと訪れてきました。日本と日本語という世界は私にとってはとても遠く未知な世界でしたが、日本の言葉の壁を突破すれば



するほど、その境を越えていくのでした。当時は漢字どころかひらがなもカタカナもできず、「日本語に慣れるには100年かかるだろう」と思っていたのですが、初めての日本語クラスで先生の日本語を聞き「なんて身近な言葉だろう」と感じました。子供の頃から日本の漫画・アニメの影響を受けてきたので気づかないうちに日本語の文字や発音に慣れていたことがわかりました。そして「よし。一生懸命やろう」と決め、日本語の勉強をはじめました。

もちろん、日本語は簡単ではありませんでした。いろんなチャレンジが私を待っていました。母語であるアラビア語の文型を見れば、文法構成は日本語の逆ですし、英語と違い、その壁を越えるにはたくさん練習しなければなりません。しかし日本人の友達と話したり、アラビア語を勉強しているランゲージパートナーの日本人と会話したりすることで少しずつ慣れてきました。アラビア語より母音が多い日本語の発音は難しかったのですが、練習すれば誰でもマスターできると信じてきました。

そうしているうちに私は日本語の「漢字」に出会いました。一見とても不思議で、絵のような複雑な字は、私をどんどん魅了していききました。できるだけたくさん字を覚えたり、練習したりするこ



筆者のアハマドさんが始めた「漢字クラブ」

とに挑む毎日でした。不思議なことに、漢字は難しくなればなるほど、さらに面白くなってきます。漢字を単に読み書きできるようになるだけでは満足できませんでした。漢字ひとつずつの書き順、「とめ・はね・はらい」の細かいところまでこだわり、美しい字を書けるように練習を繰り返してきました。先生や友達は私が漢字をこんなに好きだということを知ったとき、私に「漢字のアハマド」というあだ名までつけてくれ、今でもそう呼ばれています。



美しい文字の文化を持つアラブ人、日本の書道を体験

その後、漢字の面白さをできるだけ多くのヨルダン人に紹介するために、日本語クラスの一環で「漢字クラブ」を作ったり、先生と協力して日本語クラスの漢字の授業を担当したり、ヨルダン人日本語学習者のための漢字教材開発にも貢献することができました。奥深い漢字の世界の魅力を少しでも紹介できたら嬉しく思います。

ヨルダン人の日本語学習者は、一回日本語の世界に入り込むとその魅力にひきつけられ、一生懸命勉強に励みます。日本語クラスとともに様々な活動が日本語能力を上げるためには大切です。また、アニメやドラマを見てその文化を通して日本語を覚えることもいいと思います。台詞や表現を面白いシーンで連想したら、覚えやすくなります。

言葉を学ぶことは、その言葉を使う人の文化や価値観を学ぶことです。私は日本人の先生や友達から、日本文化をたくさん学ぶことができましたが、それをそのまま吸収するのではなく、仕事に対する勤勉さ、時間の守り方、相手への思いやりなど、自分の文化にあった良いところをたくさん身につけるようにしています。自分の文化を大切にしながら相手の文化を理解する能力が、急速にグローバル化している世界のなかで、とても重要になると思います。

私の日本語学習の道はどこまで続くのでしょうか。次のチャレンジはどこにあるのでしょうか。この問いに答えるべく今は日本への留学を目指しています。その夢を実現するために、これからももっと頑張っていきたいと思っています。

アハマド・アブ・オーデ

1985年生まれ。ヨルダン・アンマン在住。ヨルダン大学のIT学科卒業。  
現在、日本留学を目指して勉強中。

あちこち

## 日本語

ご紹介 国内編

神奈川県  
横浜市日本で暮らす日系人  
再就職を目指して

財団法人海外日系人協会 土方陽美

昨年来の経済情勢の悪化により失業した日系人が、早く再就職できることを目的として、厚生労働省が実施している事業が「日系人就業準備研修」だ。全国5,000人を対象とした、極めて大きな規模の事業である。

私が所属する(財)海外日系人協会は1967年に設立され、世界各地のおよそ260万人の「海外日系人」と日本社会との架け橋として、海外日系人との親善交流や、日本で就労している日系人の支援、海外の日系社会及び国内の日系子弟に対する日本語教育、研修員の受入れなどの活動を行っている。このような経験とノウハウを活かし、就業準備研修の実施主体である(財)日本国際協力センター(JICE)に協力して研修カリキュラムの策定を支援するほか、神奈川県内での研修を企画・運営している。当初の神奈川の目標としては年間19コース、380人を受入れることとしていたが、実態としては、申込者は今や750人に迫る勢いである。5月半ばに大和市で第1回コースを開講して以来、藤沢・平塚など8市町でコースを立ち上げてきた。10月末までには第30回コースまでを開講し約600人を受入れる見込みである。

## 日本語講習と就労講義

研修は、大きく日本語講習と就労講義によって構成されている。日本語講習では、日常生活や職場において必要とされる日本語コミュニケーション能力を身につけることを目標として、初級レベルの日本語学習を行っている。就労講義では、日本の雇用慣行や社会保険制度などに関する基本的な知識を学び、さらに履歴書の書き方など、求職活動に必要なスキルを習得できるような内容が組み込まれている。

これまで数パターンのカリキュラムを試みたが、神奈川では、日本語講習約120時間、就労講義(面接練習などの演習を含む)約30時間、合計150時間で行ったものが多い。

受講者対象となっているのは、ブラジル、ペルーを中心とした南米諸国からやってき

た日系人である。受講生の日本語能力には大きな個人差がある。また、彼らの日本語は職場や日常生活の中で見聞きしながら身につけたものが多いため、初級の学習項目であっても正しく習得されておらず、17、8年日本に住んでいてもひらがな・カタカナの読み書きができないなど、文字学習が抜け落ちていることも珍しくない。

一方、就労講義では、かなり高度な日本語能力が要求される。たとえば、「ハローワーク検索画面の見方」では、タッチパネルに表示される業種名などを読む力、「面接シミュレーション」では自分の職務経験や長所などを語る力、また、「履歴書の書き方」では、日本独特の様式に正しく文字を書く力が求められてしまう。1つの研修でありながら、日本語講習で扱う日本語と就労講義で求められる日本語との間に乖離が否めず、研修開始当初から悩みと感じてきた。

しかし、予想をはるかに超える申込みがあったことから、これまで少しでも早く新しいコースを作り、一人でも多くの希望者を受入れることを優先してきた。彼らは雇用保険が給付される間はまだいいが、それが過ぎれば収入が途絶え、勉強どころではなくなってしまう。また、「帰国」という選択肢も考えざるを得なくなる。

研修を開始して4カ月が過ぎ、ようやく内容の充実を目指した取り組みが始められるようになってきた。たとえば、日本語講習と就労講義それぞれの内容に、双方の講師が関心を持って協力する、また、会場の異なる日本語講師がお互いの授業を見学し、使用教材やプリントを共有して有効活用しようという動きも出てきている。

## 受講者たちへのインタビューから

日系就労者たちは、これまで時間があれば、すべて仕事に費やしてきたそうだ。それが今、まったく仕事なくなった。だから、この時間を日本語学習に充てたいと語



ハローワークの講師(右)より通訳を介して検索画面の見方を学ぶ

っていた。彼らの熱心な学習態度から、「日本語ができないと仕事は見つからない」という認識が強まっていると感じる。中には、日本社会ともっと融合するために日本語を覚えたいという人もいた。来日時は幼少だった子どももすでに高校生、今さら自国へは戻れないという人もいた。いずれにしてもこの厳しい状況の中で日本に残る決意をした人たちが、この研修を受講している。

日本がバブル景気の中にあった1990年、入国管理法の改正によって、3世までの日系人とその配偶者・子どもは、日本に定住できるようになった。派遣会社が「デカセギ」希望者を募り、仕事や住居を斡旋することで、日系人たちは日本語を覚えなくても日本で就労し、生活できる環境が整った。

それから20年近くの間には彼らは日本で生活の基盤を築いてきた。なのに、経済不況のあおりを受けて真っ先に職を失い、頼みにしてきた派遣会社もつぶれてしまった。そして、自力で仕事を、場合によっては住居をも探さなくてはならなくなった。

日本が人手不足解消のために仕組みを作って彼らを受入れた結果、起こってしまったこの事実を、今こそ真摯に受け止める必要がある。政府が効果的な政策を打ち出すことも重要なのはもちろんだが、私たちもそれぞれの立場でできることを考えていかなければならないと思う。

彼らが熱心に学習に取り組んでいる姿は、研修に関わる講師、そして運営側である私たちにも大きな刺激を与えている。

あちこち

## 日本語

ご紹介 海外編



ヨルダン・ハシミテ王国

アンマン

ヨルダン日本語教育の転機

ヨルダン大学 日本語教師 タイムール・ハンドーク

ヨルダンにおける日本語教育は1993年に、今私が所属しているヨルダン大学で始まりました。当時現地には日本語教師はまだ存在しなかったため、国際協力機構（JICA）の青年海外ボランティアの派遣が日本語教育の原点でした。現在、日本語教育を提供する機関といえば、ヨルダン大学外国言語学部の日本語講座とJICA研修員同窓会日本語公開講座（以下JJLC）があります。担当教師とコース内容に共通点が多いこの二つの講座の大きな違いは対象の学習者にあります。大学講座は履修大学生に限定されるのに対して、公開講座では、幅広いバックグラウンドを持つ一般社会人の日本語学習者を対象としています。

大学講座と公開講座で扱っている内容は日本語初級前半レベル（『みんなの日本語初級Ⅰ』）になっています。大学の授業は週3回（1回につき60分）または週2回（1回につき90分）、あわせて1週間に3時間、1学期に48時間のペースで進んでいます。学部のシラバス上、『みんなの日本語初級』15課までしか開講されていないため、それ以上の日本語レベルを目指す学習者のニーズをJJLCの公開講座でカバーしています。公開講座ではJLPT4級のレベルと、それ以上を目指す、初級後半、中級、上級までの指導を各レベル週1回（90分）の授業ペースで行っています。



ヨルダン大学のモスク

## 転機

16年を経て、今ヨルダンにおける日本語教育に大きな転換期が訪れています。ますます増える一般人の日本語学習ニーズに加え、さらに大学レベルにおける日本語教育を

発展すべく、ヨルダン大学の日本語・英語専攻の立ち上げに向かっての動きが本格的に始まっています。専攻の設立に向かって、ヨルダンの日本語教育関係者は一生懸命頑張っています。

現在100人ほどの日本語学習者のニーズに応えるべく、私とJICA派遣ネイティブ日本語教師の二人で忙しい毎日を送っています。忙しくて大変ですが、とても楽しいです。日本による直接投資、日本企業の存在が少ないヨルダンでは、ツアーガイド現場以外、職場で日本語能力を活かす機会が殆どないという状況です。ヨルダンの日本語学習者は実利目的より、日本と日本文化への関心・興味をきっかけに、日本語を学習しています。また最近ではインターネット普及とともに主にアニメや漫画、ビデオゲームなどポップカルチャーに接する機会が増え、

それをきっかけに日本語学習に挑む若者もますます増えています。このような純粋な動機と意欲を持った学習者に向かって、日本語を教えるのは、教師として非常に恵まれていると思っています。

## 様々な活動と取り組み

日本語を教えることとともに、日本や日本文化を紹介することはヨルダンの日本語教育の大きな事業、実



書道のクラス。学習者は書いた文字に自分の夢や希望を込める

績となっています。クラスのなかで行う文化体験（書道、折り紙、伝承遊び）以外に、Japan Festival などの大規模文化紹介のイベントを開催し、日本語学習者だけではなく、ヨルダン人に幅広く日本のことを紹介しています。

また、日本語を学びたいが時間があまりない、日本語教室になかなか来られない多くの潜在的な日本語学習者のニーズに応えるべく、ヨルダンの日本語教育チームはEラーニングによる日本語学習の基礎になるような学習内容や、それを学習者のところに届けられるようなプラットフォームの開発に取り組んでいます。できれば、中東地域のアラブ人学習者のためのリソースになることを目指しています。

中東・アフリカにおける日本語教育の規模は世界の日本語教育の規模に対し1%にもなりません。このような小規模な現場で日本語を教える学習者のための何になるか？意味はどこにあるか？という疑問を持つ人はいるかも知れませんが、私達の中ではこのような疑問を持ったことは一切ありませんでした。なぜなら、これからのヨルダンの発展・繁栄に貢献し、ヨルダンだけではなく、アラブやイスラム世界と日本のかけ橋になってくれるような人材の育成が最終的なゴールだと信じているからです。

# 教材紹介

『日本語初級 2 大地 メインテキスト』  
『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』  
『文章を理解するとは 認知の仕組みから読解教育への応用まで』

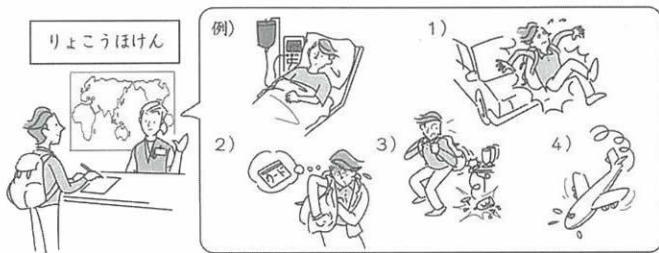
## 『日本語初級 2 大地 メインテキスト』

東京大学大学院工学系研究科 山崎佳子

◆イラストによる導入から運用練習までをこの1冊で！

『日本語初級 1 大地メインテキスト』の続編、『日本語初級 2 大地メインテキスト』が発行になりました。初級 1 と同様、学生から社会人までを対象にした、総合的な日本語初級教材で、使用場面を重

2-1. 病気になるかもしれません。



【30課2-1】 海外旅行に行く若者が旅先で起こりうる様々なトラブルを予想して空港で旅行保険をかけている場面

視し、コミュニケーション能力育成を目指したテキストです。

様々な活動を通して初級の学習項目を楽しく効率よく学びたい方にお勧めします。

	『大地 1』	『大地 2』
・課：	22	20
・語彙：	1,100	800
・学習項目：	88	67
・表記：	漢字かなまじり (総ルビ)	
・時間数：	各100~120時間	
・CD：	各1枚	

### 日本語初級 2 大地 メインテキスト

B5判 190頁+別冊 48頁 CD1枚付 2,940円  
山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子



## 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』

日本語講師 平井悦子・三輪さち子

本書は『中級を学ぼう 中級前期』に続く、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく、また統合的に学習できる10課構成の総合中級教材です。

◆本書の5つの目標

- ・読解力養成：「本文」キーワードから内容を推測する・段落ごとの展開を読み取る・内容をまとめる「学習項目練習：読もう」「関連読み物」
- ・作文力養成：「作文」段落を意識して書く「学習項目練習：書こう」
- ・聴解力養成：「本文」キーワード聞き取り「聴解2」本文に関連性のあるテーマ「学習項目練習：聞こう」
- ・会話力養成：「扉のページ」その他学習項目を使って話す
- ・語彙量を増やすこと：生教材を多用

#### ■各課のテーマ

- 第1課：色
- 第2課：ユーモア・ジョーク
- 第3課：制服
- 第4課：算数
- 第5課：遊びと運動
- 第6課：お金
- 第7課：水
- 第8課：遺伝
- 第9課：漫画・アニメ・本
- 第10課：ヒトと動物

中級イコール語彙と言っても過言ではないと私たちは考えます。学習者が語彙量を増やすには、漢字のマスターという大きな課題に直面します。本書では、漢字の下に赤字で振り仮名をつけました。辞書で意味を調べることが容易にし、付録の赤いシートを載せ、振り仮名を消すことにより、漢字の読み練習もできます。

#### 関連読み物

#### 生命にとって水とは何か

地球は「水浸しの惑星」と言われる。その水の97.5%は海洋の塩水である。残りの2.5%が淡水ということになるが、その大部分(70%)は氷雪であり、南極やグリーンランドなど地球上の北極に凍り付いて存在する。氷雪以外の淡水は地下水、土壌中の水である。人間は飲むことができるが、一般的に利用可能な淡水は少ない。森林をはじめとする陸地は、水を循環させる役割を果たしている。

#### 本文のキーワード

- 1. CDを聞いて読み方を書き、意味を調べましょう。(CD)
- 1) 文明： 2) 変化：
- 3) 現代： 4) 貧困：

第7課 関連読み物 (部分)

第5課 本文のキーワード(部分)

本書を利用し、4つの技能を等しく伸ばし、生き生きとしたコミュニケーションを楽しんでいただきたいと願っています。

本文学習項目： 説明は英中韓訳つき

付録： CD1枚・赤いシート

索引・各課語彙一覧：スリーエーネットワークホームページに掲載  
([http://www.3anet.co.jp/ukky/chukyu\\_manabo\\_CC.html](http://www.3anet.co.jp/ukky/chukyu_manabo_CC.html))

### 中級を学ぼう

### 日本語の文型と表現82 中級中期

B5判 216頁 2,520円  
平井悦子・三輪さち子 著



## 『文章を理解するとは 認知の仕組みから読解教育への応用まで』

東北大学文学研究科准教授 甲田直美

本書は、文章理解の仕組みを認知の根本から解き明かし、その知見を効果的な読解教育へ応用しようとするものです。私たちが日常行っている文章の理解とはどのような過程なのかを知り、これからの読解教育に役立てます。

## ◆本書の構成

- 第1部 分かるとはどういうことか
- 第2部 何が「分かる」に影響するか
- 第3部 より良い理解のためには：読解活動を学習に活かし、応用するために
- 第4部 読みと個性

本書の第1部では、「読み」「理解する」行為とは、どのような心的プロセスなのかを考えます。第2部では、文章読解に影響を与える人間の情報処理の特質、第3部では、読解を助ける手段、より良く理解するための方法として、アナロジーや図や絵の利用、読解ストラテジー、メタ認知とモニタリングの効果について、理解活動を基盤に検討します。そして第4部では、理解する読み手と文章との相互作用や、読み手の特性がどのように理解に影響するかを扱います。文章を読んで理解するという行為は、心の働きから見ると、どの

ような過程なのでしょう。本書では、認知科学、心理学および応用分野で実証されたデータを、読解活動を中心に置き、読解活動全体の見通しを得るよう、読解に影響する私たちの心の働きを分かりやすく整理しました。人間の理解についての研究が進んだことによって、より良い理解のためにどうすればよいのかについて、応用面での研究も進展してきました。教育場面では、文章読解について、学習者を補助する案として、興味深い内容を盛り込む、分かりやすい内容にするなど、教材開発が工夫されていますが、より分かりやすくするためには、どうやって理解するかを知る必要があります。より効果的にするためには、人間が理解する仕組みをもとにして解かなければ問題の根本的な解決にはならないと思うからです。そこで本書では、理解の仕組みから読解教育までを総合的に検討することにより、認知的に効果がある読解教育を考えていきます。

文章を理解するとは  
認知の仕組みから読解教育への応用までA5判 216頁 2,100円  
甲田直美 著好評  
発売中

## 改訂版トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級後期

専修大学国際交流センター監修●安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 著  
B5判 123頁 1,575円 [978-4-88319-505-3]

発売以来のロングセラー『トピックによる日本語総合演習—テーマ探しから発表へ—中級後期』の改訂版です。

本書は、勉学・研究のための日本語運用力を養成する目的で作成されています。学習者自身がテーマを探し、調査、考察、発表を行うことを通して、情報収集、情報伝達、調査分析、原稿作成、発表などのスキルが養われます。

改訂にあたり、全課のデータを一新し、読み物などの内容も一部変更しました（5つのトピックは初版から変更ありません）。また、巻末「調査・発表のための手引き」の内容も、より充実させました。

◆『改訂版トピックによる日本語総合演習』シリーズのご使用に役立つ資料が当社ホームページにあります。

([http://www.3anet.co.jp/japanese/topic\\_series.html](http://www.3anet.co.jp/japanese/topic_series.html))

## ●全体構成

- ①教育
- ②言葉
- ③コミュニケーション←New! (内容を全面的に改訂)
- ④昔話
- ⑤住宅
- 調査・発表のための手引き

## ●各課の構成

- I. はじめに ←トピックの導入
- II. III. 情報 ←グラフ、読み物、資料など
- IV. 調査発表 ←アンケート・インタビュー・文献調査、文集作り  
(それぞれの調査の計画から評価までが、巻末の「手引き」に詳しく掲載されています)

待望のポルトガル語訳  
完成!

## 『みんなの日本語初級 I 漢字 ポルトガル語版』

西口光一監修●新矢麻紀子・古賀千世子・高田 亨・御子神慶子 著  
B5判 159頁+参考冊 37頁 1,890円 [978-4-88319-508-4]



SEMINARS

セミナー



●九州日本語教育連絡協議会2009年度12月研修会  
活動型日本語クラスの実践—より豊かな日本語教育をめざして

あなたは、毎日どのような教室活動をしていますか。教科書を手に、その中で決められた項目やシラバスに沿って教えながら、クラスの参加者にとって本当に必要なものはなんだろうと考えたことはありませんか。

活動型授業の世界は、今までのあなたを振り返らせ、「今のわたしはこれでいいのだろうか」と内省させるきっかけになるのかもしれません。今回の研修会を通じて、活動型日本語クラスの実践が、教師や学習者にとってより豊かな日本語教育に繋がるよう、参加者の皆様と一緒に考えていきたいと思います。

日時：12月19日（土）13：00～17：00  
（受付開始：12：30）

会場：九州大学 箱崎・文系キャンパス・文系地区21世紀交流プラザ（最寄り駅：地下鉄箱崎線「箱崎九大前駅」）

講師：細川英雄（早稲田大学大学院日本語教育研究科教授、『日本語教師のための「活動型」授業の手引き—内容中心・コミュニケーション活動のすすめ—』編者）

定員：80名  
参加費：1,000円（当日納入）  
主催：九州日本語教育連絡協議会  
共催：スリーエーネットワーク

問い合わせ/申込先：

①住所②氏名③電話番号④所属を明記の上、メールまたは郵便で下記宛にお申込みください（電話、FAXでの申込みは不可、また当日の受付はいたしません）。  
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1  
九州大学留学生センター 小山 悟  
e-mail: koyama@isc.kyushu-u.ac.jp

申込締切：12月18日（金）必着（定員オーバーの場合のみ、その旨お知らせします）

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします（国内のみ）。『Ja-Net』第52号は1月25日発行です。

BOOKS

ほん

みんなの日本語 中級 I 翻訳・文法解説韓国語版	発売中	1,680円
みんなの日本語 中級 I 翻訳・文法解説中国語版	発売中	1,680円
こどものにほんご2 れんしゅうちょう	発売中	1,155円
正しく書ける カタカナ語すらすら 1日10分	11月発行予定	1,050円
中間言語語用論概論 第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育	12月発行予定	2,100円
聴くトレーニング〈聴解・聴読解〉応用編 日本留学試験対応	2010年1月発行予定	2,520円

すべて税込価格です

●新刊のご案内

国際協力の現場から見た **アジアと日本** 経済技術交流の50年

久保田誠一 著（元・朝日新聞記者、現・大妻女子大学比較文化学部講師）  
1,365円（税込）四六判 368頁（写真多数）

「国際協力」をキーワードに、アジアと日本の絆を戦後史と共に振り返り、今後のアジアとの友好関係構築、日本のこれから進む道にヒントを与える一書となる。そのケーススタディとして、「ひとづくり」をテーマにアジアからの技術研修生に日本語教育や経営システム教育を50年にわたって続けてきた財団法人海外技術者研修協会（AOTS）の足跡を辿る。

インド、中国、韓国、イランでの日本企業の苦労やモンゴルと日本の意外な関係、「復帰帰」沖縄からの研修生の活躍、メキシコが重視したアジアの中の日本。看護師・介護福祉士に挑戦するインドネシアの研修生、タイに大学を設立した帰国研修生の話など、「知られざる日本の国際協力の姿」が浮き彫りになる。



■全9章の構成

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 第1章 インド 「小さな窓」から入って来た日本 | 第6章 メキシコ 若者が架けた「友好の橋」   |
| 第2章 沖縄 米国統治下からやって来た研修生  | 第7章 イラン IJPCは生きていた！     |
| 第3章 韓国 従軍牧師になったアルミ研修生   | 第8章 タイ 輝く技術移転の「金字塔」     |
| 第4章 中国 民を以て官を促す         | 第9章 インドネシア 「共存共栄」を探る試金石 |
| 第5章 モンゴル 「怨讐」を超え友好国へ    |                         |

■読者プレゼント

『国際協力の現場から見た アジアと日本 経済技術交流の50年』を抽選で10名様にプレゼントいたします。ご希望の方はお名前、ご住所、郵便番号、電話番号をご記入の上、「アジアと日本希望」と明記し、営業広報部 Ja-Net編集室宛にお葉書またはメールでご応募ください。締め切りは11月20日です（当選は商品の発送をもって代えさせていただきます）。

財団法人海外技術者研修協会創立 50周年記念

AOTS 日本語教育センター [JLTC] シンポジウム

テーマ：「国境を越えた人の移動と日本語教育—日本語教育の現在と未来」

日時：2010年2月20日（土）13:30～17:30	パネリスト：尾崎明人（名古屋外国語大学教授）
会場：全電通労働会館（JR 御茶ノ水駅徒歩4分） 東京都千代田区神田駿河台3-6（420席）	横田雅弘（明治大学教授） 安里和晃（京都大学特任教授）
参加費：1,500円（先着400人）	
モデレーター：春原憲一郎 （AOTS 理事・日本語教育センター長）	連絡先・問合せ先：AOTS 日本語教育センター
基調講演：伊豫谷登士翁（一橋大学大学院教授） 「世界的な留学生の動向と日本の現状」	電話番号：03-3888-8250 メールアドレス：thank.jltc@aots.or.jp

Ja-Net 季刊ジャネット No. 51

スリーエーネットワークという社名は、アジア（Asia）、アフリカ（Africa）、ラテン・アメリカ（Latin America）のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2009年10月25日発行

●発行人 小林卓爾  
●発行所 (株)スリーエーネットワーク  
営業広報部 Ja-Net 編集室

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル  
TEL 03-3292-6193 FAX 03-3292-6194  
E-mail: ja-net@3anet.co.jp http://www.3anet.co.jp/

●印刷 日本印刷（株）  
©2009 by 3A Corporation Printed in Japan（禁無断転載）